

取組と目標に対する自己評価シート

タイトル:介護保険事業の適正・円滑な運営とサービスの質の向上

目標を設定するに至った現状と課題

長期的に安定した介護保険財政の運営につなげるため、介護保険事業の適正・円滑な運営とサービスの質の向上に向けて、介護給付費の適正化が重要となる。

当町では、年々総人口の減少が進んでいるが、前期・後期高齢者率は増加している。そんな中、認定率や一人当たりの介護費用額は他市町村に比べ低い値にあるので、これを継続し、安定した介護保険財政を運営して行くことが必要である。また、それぞれの介護サービス利用者に必要な介護サービス量が適正であるかを確認し、給付の適正化を図る必要があります。

第8期における具体的な取組【P】

★給付適正化の推進

- ①地域ケア会議の開催
- ②ケアプラン点検
- ③介護給付適正化システムを活用した介護給付費縦覧審査帳票等のチェック

目標(事業内容、指標等)【D】

- ①地域ケア会議の実施 年間12回
- ②ケアプラン点検 居宅介護支援事業所2カ所
- ③縦覧審査帳票のチェック 毎月実施

目標の評価方法

●時点

中間見直しあり

実績評価のみ

●評価方法

目標の年間実施件数

前期(実績評価)【C】

実施内容

地域ケア会議 9件(達成率75%)、ケアプラン点検 2件(達成率100%)、
介護給付適正化システムを活用した介護給付費縦覧審査帳票等のチェック 12回/12月(達成率100%)

自己評価結果【△】 ○、△、×

地域ケア会議については、コロナウイルスの影響により、目標である年12回は達成できていないが、実施の方法について、協議を重ねてきた結果、内容は充実したものになってきている。目標を達成していないため「△」とした。

その他目標に掲げている内容については、実施率100%。不要な給付につなげることがないよう継続し、点検していく。

自己評価から考察した課題と対応策【A】

【課題】

不要なサービス提供は、住民の介護保険料に影響を与えることになるため、介護保険のしくみについて普及啓発を図っていく必要がある。

【対応策】

集いの場等で介護保険のしくみについての説明を行い、周知を図っていく。